

ダイズモザイク病と倒伏に強く大粒良質で 高蛋白な大豆新品種「里のほほえみ」

国際的な需給の逼迫と価格の上昇により、実需者から国産大豆の安定供給が強く求められています。そこで、南東北地方向けに大粒でダイズモザイクウイルスに強く、さらに耐倒伏性等の機械化適性を向上させた豆腐用の高蛋白品種を育成しました。

☆技術の概要

1. 「里のほほえみ」は、平成8年に東北農業試験場(現、東北農業研究センター)において、ダイズモザイクウイルス抵抗性の「東北129号」を母、極大粒系統の「刈交0264MYF6」を父とした人工交配から育成された系統です。
2. 成熟期は「エンレイ」より1週間ほど遅い晩生で、収量は普及見込み地帯の山形県では「エンレイ」並です。また、倒伏に強く、最下着莢位置が高く、難裂莢性で、コンバイン収穫等の機械化適性が優れています。
3. ダイズモザイクウイルスと紫斑病に強い特性を有します。
4. 子実は百粒重が40g前後の大粒で外観品質に優れ、煮豆、味噌の加工適性も良好です。
5. 子実中の蛋白質含量は45%前後で「エンレイ」並に高く、豆腐に適しています。

表 育成地における試験成績

試験場所		育成地(大仙市)		
系統・品種名 項 目		東北160号	エンレイ (標準)	スズユタカ (比較)
成熟期(月日)		10.21	10.15	10.16
子実重(kg/a)		37.7	41.4	37.2
百粒重(g)		39.4	33.1	26.0
粗蛋白質含有率(%)		44.3	44.3	39.6
機械 化 適性	倒伏程度	少	多	多
	最下着莢部位高(cm)	29	23	16
	裂莢率(%)	4	97	81
加工適性	豆腐	適	好適	可



図1 東北160号(後方)とエンレイ(手前)の耐倒伏性の違い(水田転換畑標準播、平成20年10月20日)

☆ 活用面での留意点

1. 栽培適地は南東北地方等で、山形県で奨励(認定)品種に採用されている。
2. ダイズシストセンチュウには「エンレイ」と同様に弱いので、過度の連作やセンチュウ被害の発生履歴がある圃場での栽培は避ける。
3. 詳細は東北農研・大豆育種研究東北サブチーム(TEL: 0187-75-1084)へお問い合わせ下さい。
(中央農業総合研究センター 研究管理監 寺島一男)